

みんなで考えよう  
多様な視点で取り組む  
**避難所運営**



新宿区では、女性、子ども、高齢者、障害者、外国人などの多様な視点を反映した避難所運営について考える取り組みを進めています。

令和5年度は、筆筒町地区及び若松町地区で避難所見学を行い、災害時の避難所の使い方や運営について学び考えました。このリーフレットは、その時の“気づき”をまとめたものです。

# みんなで考えよう、多様な視点で取り組む

## 避難所運営

### なぜ多様な視点で避難所運営を考えるのか？

本プログラムでは、多様な立場で避難所運営を考える際に、特に女性の視点を大切にしています。男女共同参画が進んできている時代ではありますが、日頃、食事・育児・介護などの役割を担っている比率は、女性の方が高い状況です。過去の震災では、女性はそれらの役割に加え、女性特有の困難（トイレ、着替え場所、授乳など）に直面しています。例えば、避難所の運営者に女性が少ないことで、避難所の環境改善に関する意見が運営に反映されにくいなどの課題がありました。このような課題に向き合うためには、女性をはじめ高齢者、障害者などの要配慮者やその支援者が経験した災害時の困りごとをみんなで学び、どうしたら良いかを考えておくことが大切です。

本ワークショップでは、過去の災害で要配慮者を支援した方の体験談や避難所見学を通じて事前の心構えをし、災害時の要配慮者支援のイメージを持ちやすくすることで、避難者同士の相互扶助体制を構築することを目的としています。



### 過去に学ぶ

平成30年7月豪雨や熊本地震などの避難所で、女性や高齢者などを支援した方に、体験談や工夫した点・苦慮した点についてお話を聞き、災害時のイメージを共有しました。



日本ミクニヤ株式会社、福祉防災上級コーチ  
上園 智美 氏

女性と福祉の視点  
「過去に学び、未来に備える」

避難所では生理用ナプキンなどの女性用物資の配布方法などで悲しい思いをした人たちがいました。それは、避難所の運営スタッフに女性が少なく、女性の声が届きにくい事も関係しています。また、避難所では、運営スタッフだけでなく、避難者も自らできる範囲で活動しないと、健康の維持が難しくなります。災害時は、一人ひとりが「もう一歩」の優しさを持ちましょう。



広島県自主防災アドバイザー  
竹原 茂 氏

地域防災リーダーの視点  
「避難所における課題  
～平成30年7月豪雨の経験から～」

避難所での支援を行うにあたって、何かをするときは、避難所にいる皆さんと相談して意見を聞いて進めていきました。そして、日頃からの連携が重要だと痛感しました。ただ、町内会長は皆男性だったので、食事などの生活支援や衛生管理・心のケアなど細かな対応には女性の視点からの助言や協力が必要でした。被災者に寄り添うためには、何を求められているか、それに対し、自分は何ができるか、自分にできなければどうすればいいのかを考えることが重要だと思います。

### 今回学んだこと

誰も経験していないことはわからないため、男性（女性）が「女性（男性）に必要なこと」を想像しにくいのは自然なことです。これは、子育て、高齢者、障害者に対しても同じです。経験の差を埋めるには、実際に困ったことがあった人の経験談や、困りごとの改善に協力した支援者の声を聞くことが役に立ちます。また、障害と言っても、その種類や程度は様々なため、「周りが完璧にやっつけなければ」、ではなく、当事者にどのような支援が必要か聞きながら支援していくことも学びました。そして、避難所の運営に避難者も積極的に関わることが、運動不足になりがちな避難所での健康維持や、メンタルヘルスに役立つことも大きなヒントでした。



# 避難所を知る

女性、子ども、高齢者、障害者などの視点から避難所を見学し、当事者や自分たちが避難生活や避難所運営をする時に、どのような状況になるのかを考えました。

## ！ 参加者の気づき ？

### 女性や子育てに関すること

- ・更衣室は男女別に必要だと感じた。
- ・生理用品やおむつなど、人によって必要だが、他の人の目が気になってもらいにくいような物資は、更衣室やトイレ等に配置した方がよいと思う。

### 配慮が必要な人への対応

- ・高齢者の居住空間は、移動が容易な1階やトイレの近くがよい。
- ・広い多目的空間やフリースペースは、区割りする際に柔軟に使えるため、男女別にしたリ、介助などの配慮が必要な人にとっても使いやすい空間である。
- ・要配慮者向けの部屋として計画していても、特別教室などは机が固定されていて使いづらい場合もある。災害時には状況に応じて使用する部屋を判断しなければいけない。

### 避難所の運営に関すること

- ・体育館での避難者の受け入れ方や空間の区切り方は、予め検討しておくことが重要だと思う。
- ・災害時に運営の主体となるメンバーがどれくらい集まれるのが不安である。
- ・避難所開設キットに慣れておく必要がある。

筆筒町地区/牛込第三中学校



体育館



更衣室



誰でもトイレ



災害用マンホールトイレ

若松町地区/余丁町小学校



体育館



フリースペース（廊下）



普通教室



幼稚園

## コラム

## 避難所運営ゲーム（HUG）で避難所運営を擬似体験

避難所運営ゲーム（HUG）は、カード1枚1枚を避難者に見せて、カードに書いてある様々な事情を持った避難者を、避難所でどのように受入れていくかを疑似体験できるカードゲームです。講演会や避難所見学で得た気づきも踏まえ、以下の工夫がされていました。

協力：HUGのわ

### 工夫の例



- ・避難所開設後、早い段階で男女別の部屋を作る。
- ・高齢者や身体障害のある方には、なるべく1階の部屋を案内する。
- ・車椅子の人も通れるように体育館の通路を広くとる。
- ・避難者の中から得意分野を活かしたボランティア募集をする。など





# 避難所の運営を考える

講演会、避難所見学及び避難所運営ゲーム(HUG)を踏まえて、避難所の運営を考えました。

ワークショップでは以下の **3つの問い** について、模擬避難所図面を使って、避難所の使い方や運営に必要なルールを話し合いました。

## 問1 避難者を受け入れる前に決めておくべき「要素」は？

参加者から出された意見(主なもの)

### 【運営に関する要素】

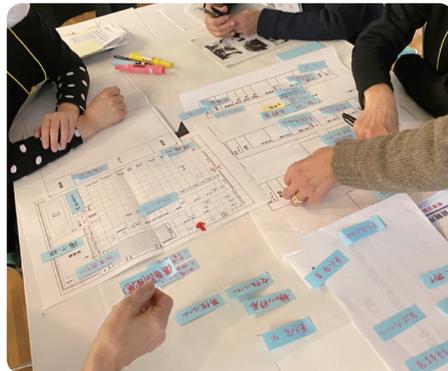
- ・避難者受付
- ・運営本部
- ・掲示板(避難所向け、在宅避難者向け)
- ・使ってはいけない部屋、使えない部屋
- ・ボランティア受付

### 【配慮が必要な人に関する要素】

- ・高齢者向けの部屋
- ・妊婦、乳幼児、子育て世帯向けの部屋
- ・障害者向けの部屋
- ・医療対応が必要な人向けの部屋
- ・女性等相談コーナー
- ・子どもが遊べる部屋
- ・感染者用の部屋

### 【生活に関する要素】

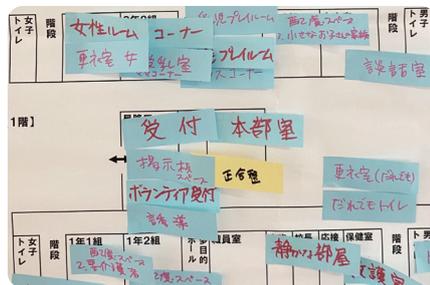
- ・更衣室(男性、女性、だれでも)
- ・トイレ(男性、女性、だれでも)
- ・ペットの受け入れ場所
- ・物置き場(荷下ろし、配布、保管)
- ・ごみ置き場
- ・静かに過ごせる部屋
- ・物干し場
- ・洗濯場



## 問2 図面に「要素」を落とし込む

参加者から出された意見(主なもの)

- ・高齢者や車椅子利用者など、移動が難しい人向けの部屋は低階階に配置する。
- ・子育て世帯向けの部屋と子どもの遊び場など、関連性が高い部屋は近くに配置する。
- ・男女別の更衣室を設ける。スペースに余裕があればフロアを分けても良い。
- ・居住空間である体育館に近い場所に、物資の荷下ろし場やごみ置き場を設置する。
- ・体育館の通路は車椅子でも通れる広さを確保する。
- ・在宅避難者向けの掲示板を、受付や運営本部の近くに設置する。



## 問3 避難所運営に必要なルールは？

参加者から出された意見(主なもの)

### 【生活に関するルール】

- ・生活スケジュール(起床・消灯、食事、換気、体操等)を作る。
- ・土足禁止エリアを設定し、靴は自己管理する。
- ・ごみの分別方法や捨て方に関すること。
- ・喫煙や飲酒に関すること。

### 【トイレ利用に関するルール】

- ・掃除は避難者が交代で行う。
- ・できる限り毎日、毎朝など決めた時間に掃除して清潔を保つ。
- ・トイレごみの出し方のルールを決める。

### 【ペットに関するルール】

- ・掃除や餌、管理は飼い主が協力しあって行う。
- ・ケージに入れ、決められた場所で飼育する。

